

令和2年度 ハバノリ養殖試験報告書

2021年5月
尾鷲市水産農林課

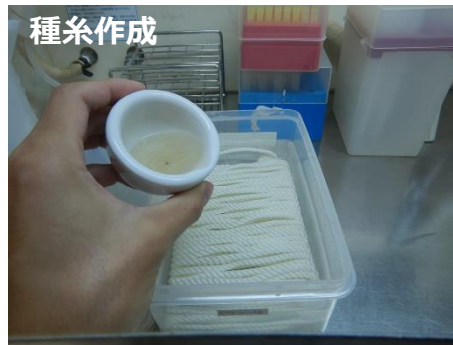
【保存株からの種糸作成】

11/17 三重大学藻類学研究室の協力を得て作成

種糸 : クレモナロープ (直径4mm)

保存株 : 行野浦産 (2017年3月作成)、鳥羽産 (2006年3月作成)

保存株ごとにクレモナ5m×3本を作成



【種糸培養】

11/18-12/17

種糸をアクリル板に巻き付け、培養容器内に收容

藻類学研究室の培養棚で下記条件で培養

栄養強化海水 (PESI培地)

光量子約35 μmol 、室温約20°C



【養殖試験】

12/17 三重大より種糸を市役所へ輸送

19°Cに調温したクーラーボックス内で保管

12/25 大曽根にて養殖試験開始

塩ビパイプ製のブイとロープで作成した梯子型養殖枠に種糸を設置

R1の試験結果を基にブイの間隔を1mに改良

2/5 試験終了



【試験結果】

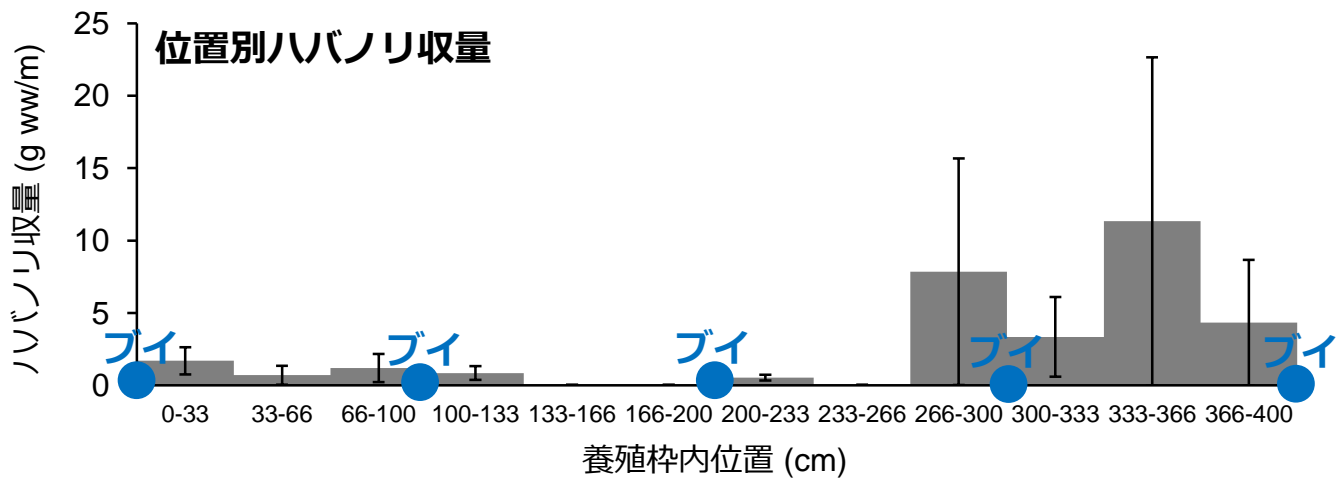
2/5 養殖枠を回収→ハバノリ収量（湿重量）を測定

平均収量

行野産15.7 g ww/m (R1, 104.3 g ww/m)

鳥羽産0.3 g ww/m (R1, 41.8 g ww/m)

- ・ 行野産、鳥羽産ともにR1に比べて収量が低かった
→三重大学における種糸培養後のハバノリ密度が低かったことが一因と考えられる
→種糸作成時もしくは培養時に問題があったと推察される（原因不明）
- ・ 行野産は収穫ができたが、鳥羽産は収量が皆無であった
→三重大学の鳥羽産保存株は2006年に作成されて以来、更新されていない
→保存株の劣化によって、ハバノリが不調であったと推察される
→今後は2017年に作成した行野産保存株で種糸を作成
- ・ 収量の多寡はあったが、養殖枠全体でハバノリが収穫できた
→ブイを1 m間隔に改良した梯子型養殖枠がハバノリ養殖に好適と考えられる



【板ノリ試作】

2/5 測定後のハバノリから板ノリを試作

全体収量 行野産290 g 板ノリ1枚あたり40-70 gを使用し、板ノリ5枚を作成

